

# 造血幹細胞移植科におけるレジデントへの

## 積極的な抗菌薬適正使用の指導と

### *Stenotrophomonas maltophilia* 等血流感染症発生動向

#### 【研究対象】

2013年6月～2015年6月の期間に、国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科において入院加療を行われた患者さんを対象とします。

#### 【研究の概要】

*Stenotrophomonas maltophilia* という細菌は健常者に感染症を引き起こすことは非常にまれですが、高度の免疫不全の患者さんにはしばしば重症感染症を引き起こすことがあります。この細菌には広域抗菌薬（多くの種類の細菌に対して効果を示す抗菌薬）が効きにくいという特徴があります。このため、ひとたび *Stenotrophomonas maltophilia* による感染症を発症してしまうと治療が大変になるため、その発症防止につき検討が必要と考えました。

“広域抗菌薬の投与を受けたこと” が *Stenotrophomonas maltophilia* による感染症の発症リスクであることが知られています。このため、造血幹細胞移植科に入院された患者さんへの抗菌薬使用方法を見直すことで、*Stenotrophomonas maltophilia* 等の耐性菌による感染症の発症を減らすことができるかを検討します。

#### 【研究の意義】

*Stenotrophomonas maltophilia* による重篤な感染症を予防することができればより安全性の高い移植治療を行うことが可能となるため、その具体的な対策について検討します。

#### 【目的】

*Stenotrophomonas maltophilia* 等の耐性菌による血流感染症の発生頻度を減らすための対策として、抗菌薬のより適切な使い方の検討およびその効果を評価します。

#### 【方法】

2014年1月以降、発熱した造血幹細胞移植後の患者さんの診察を感染症医が行ない、副担当医（レジデント）と抗菌薬使用方法の検討を適宜行っています。2014年の前後における広域抗菌薬の使用日数、*Stenotrophomonas maltophilia* 等の耐性菌による血流感染症の発生頻度の変化を調べ、その関連性について検討します。

#### 【個人情報保護に関する配慮】

診療録の閲覧は個人情報を伴いますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。対象となる患者さんの識別はカルテ番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。また、このホームページにおいて研究について公開し、問い合わせ等に応じて、患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにします。診療録の利用を希望されない場合は、下記照会先までご連絡ください。

**【照会先】**

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 総合内科/造血幹細胞移植科 沖中敬二

Tel 03-3542-2511 (代表)